#### 九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

#### [044]中国文学論集表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1650634

出版情報:中国文学論集. 44, 2015-12-25. 九州大学中国文学会

バージョン: 権利関係:



岡村 繁先生遺影

何暴难也吴荒之餘有孫亦云日暮典上所 **唐有忠録** 藏 生及楷天 v2 4 人時 莫 体 凱軍無日氏 在唯欲順 好 皓 幾 也 問 好 云事有凱 弊 政此畢不 义 日 隆 策 並 時覧見 飚 直手大字 今 照不前教 覆 慈 藏 苇 深 兹 2 格百笔 相 大書家集六濟 管課釋舊風云 子 我 至 日 陸 有崩之綝子吴 松 以書志吴是 二凱 孝 隆 遵益事廣也紀 住 其累好郡 事養賴少初日小 宗建學吴 懼 日相 家 A 补 颇是好至村生物 **朴 庆 英 美 人 展 董 美 何** 五牌 2 君 以一,射近段字耿 威 賢 焦 -维生那或介 知咸相建相 位 不時忠遊 敢 射徐至立王商過 将宗 世 臣 难列春 美 美 美 長 敢後校枝言 在 4 忠 軍 三就主射子咸 政國 朝 + 鐵事出意龍帝 朕

### 岡村 繁先生 略年譜

大 正 + 年 (一九二二) 七月二十三日、滋賀県甲賀郡油日村大字上野 (現甲賀市甲賀町上野) に生まる。

昭 和 + 年 (一九三七) 三月、 油日尋常高等小学校高等科卒業。

+ 七年 (一九四二) 三月、滋賀県師範学校本科第一部卒業。

四月、 広島高等師範学校文科第一部甲入学。

和十九年 (一九四四) 九月、 広島高等師範学校文科第一部甲第三学年修了。

十月、

和二十年(一九四五) 五月、 特別幹部候補生として西部軍管区教育隊に入隊、 伍長。

広島文理科大学文学科(漢文学専攻)入学。斯波六郎教授に師事。

昭

昭

昭

和

六月、 熊本陸軍予備士官学校に入校。

八月、 津山陸軍予備士官学校に移籍。同月末、復員。

九月、卒業論文『毛伝の原始形態に就きて』を提出して広島文理科大学文学科を卒業。

同三十日、広島文理科大学副手に就任。

昭和二十二年(一九四七)

十一月、船見たつ子と結婚。

(一九四九) 六月、広島文理科大学助手に昇任。

(一九五〇) 十月、 九月、『文心雕龍索引』刊行。 以後約三年間、 斯波六郎編 『文選索引』全三冊の編纂に従事。

昭

和二十五年

昭和二十四年

昭和二十八年(一九五三) 四月、 学制改革により広島大学文学部助手に配置換。

岡村

繁先生

略年譜

1

選』会読・文学部中国語学中国文学研究室の古典演習に参加し、吉川幸次郎 九月、兵庫県立星陵高等学校教諭。以後約六年間、京都大学人文科学研究所の 平岡武 「元曲

夫・小川環樹・入矢義高・田中謙二の諸教授より指導を受く。

三月、兵庫県立星陵高等学校を退職。

昭和三十四年 (一九五九) 四月、名古屋大学文学部助手に採用さる。 以後約五年間、

入矢義高教授に師

九月、伊勢湾台風罹災。

十月、恩師斯波六郎博士逝去。

昭和三十六年(一九六一) このころより同僚、東洋史学の谷川道雄・川勝義雄と共に京都大学・名古屋大学の有

志を糾合して「中国中世史研究会」(代表、宇都宮清吉教授)を結成。毎月一回例会。

また、名古屋大学文学部において谷川道雄と共に『宋書』会読を主宰。

昭和三十七年(一九六二) 三月、論文『後漢三国の評論に関する研究』により、名古屋大学より文学博士の学位 を授与せらる。また、このころより国史学の弥永貞三教授と共に『菅家文草』『菅家後

昭和三十九年(一九六四) 草』訳注着手。 月、東北大学教養部助教授に昇任

昭和四十三年(一九六八) (一九六六) 十月、九州大学文学部助教授に配置換。 一月、学園紛争はじまる。

昭和四十一年

十一月、目加田誠博士の後任として九州大学文学部教授に昇任。

四十七年 (一九七二) 七月、 九州大学文学部長 (任期二年)。

昭和

昭 昭

和 和

五十一年 四十八年 (一九七六) (一九七三) 五月、 四月、 九州大学文学部附属九州文化史研究施設長を兼任 九州中国学会会長 (在任二期四年)。

(任期二年)。

昭和五十二年 (一九七七) 五月、大学入試センター教科専門委員会委員 (任期一年)。

七月、 九州大学附属図書館長 (任期三年)。

中国文学研究情況を視察、同月末帰国。 九月、文部省在外研究員として、アメリカ合衆国・イギリス・フランスの図書館及び

昭和五十七年(一九八二) 五月、再び九州中国学会会長 (任期二年)。

十一月、大学入試センター試験問題特別専門委員会委員(任期二年)

十月、台北淡江大学の招聘により渡台、中国古典文学の連続講義を行う。

六月、西日本図書館学会会長 (任期十一年)。

昭和五十九年 (一九八四) 昭和五十八年(一九八三)

十一月十八日~二十九日、上海復旦大学の招聘により、日本代表団の一員として中日 長の随員として広州訪問。十二日、中山大学中国語言文学系において記念講演を行う。 十一月十日~十四日、九州大学と中山大学との学術交流協定調印のため、田中健蔵学

学者『文心雕龍』学術討論会に出席、研究発表を行う。

四月、台北の国立台湾師範大学における中国古典文学第一回国際会議に出席、 表を行う。

研究発

昭

和

六十年 (一九八五)

昭和六十一年(一九八六) 二月一日、九州大学文学部最終講義 三月、九州大学文学部教授を定年退官。 「詩経とその詩人たち」を講ず。

四月、久留米大学教授(法学部設置準備を担当)。

五月、

九州大学名誉教授の称号を受く。

九月二十日~二十六日、九州大学文学部と中国暨南大学文学院との学術交流協定締結 ため、中国広州の暨南大学を訪問。二十一日、暨南大学中文系において「詩経溯源

岡村 繁先生 略年譜

と題して記念講演を行う。

九月二十八日、明治大学と中国聯合報文化基金会による第一回中国域外漢籍国際学術

会議に出席、研究発表を行う。

十月、全国漢文教育学会理事。

昭和六十二年 (一九八七) 四月、久留米大学法文学部教授へ配置換。

し、「文選李善注の編集過程」と題して研究発表を行う。

七月二十七日~八月二日、中国長春で開催された第一回昭明文選国際学術会議に出席

四月、久留米大学大学院比較文化研究科教授。

平

成 成

元

年

昭和六十三年(一九八八)

平

年

(一九八九) (一九九二)

四月、久留米大学文学部教授、文学部長(任期四年)。

し、「文選集注と宋明版本の李善注」と題して研究発表を行う。

七月二十九日~八月五日、中国長春で開催された第二回昭明文選国際学術会議に出

四月、日本中国学会顧問。

(一九九五) (一九九三) 二月二十日~二十五日、台湾中央研究院中国文哲研究所の招請によって同研究所を訪

平 平

成

七

年

五.

年

問し、「孝道と情欲 ――後漢末期儒教の苦悩」「文選李善注の編集過程」等の集中講義 を行う。 七月二十七日~三十一日、北京大学中文系主催の『文心雕龍』 国際学術研討会に出席

する。中国文心雕龍学会顧問

研究発表を行う。 八月一日~六日、鄭州大学古籍整理研究所主催の『文選』 中国文選研究会顧問。 国際学術研討会に出席し、

(一九九六) 三月、久留米大学文学部教授を定年退職。 四月、 久留米大学名誉教授。

平

成

八

年

四月、久留米大学文学部・大学院比較文化研究所客員教授(任期一年)。

十月末、軽度の脳梗塞を発症して久留米大学病院に入院、 十一月十六日退院。

(一九九九) (一九九七) 一月三日、勲二等瑞宝章を受章。

平

年 年

平

九

九月四日~八日、四川大学中国古典文献学国際学術研討会、暨楊明照教授九十華誕慶 八月三十一日~九月三日、西安及び近郊を観光・視察する。

典に出席する。六日、「従宋代刊本『文選』李善注裏可以看出其剽窃和利用了『文選!

五臣注」と題して研究発表を行う。四川大学文学与新聞学院栄誉教授。

三月、中国文学理論学会顧問王元化氏主催の上海図書館における学術講演会に出席し、

日本接納中国文芸的類型」と題して講演を行う。

平成十二年(二〇〇〇)

七月、中国長春師範学院で開催された第四回『文選』学国際学術研討会に出席し、「二 四月、中国鎮江市で開催された二〇〇〇年国際『文心雕龍』学術研討会に出席する。

十世紀的日本『文選』研究与課題」と題して講演を行う。

平成十四年(二〇〇二) 五月、中国寧波大学で開催された二〇〇二年楚辞学国際学術研討会に出席し、「関於楚 辞体文学的分離現象」と題して講演を行う。

成十七年(二〇〇五) 七月、中国河南省新郷市の河南科技学院で開催された第五回国際文選学学術研討会に 出席する。

平成二十二年(二〇一〇) 十八年(二〇〇六) 五月、華東師範大学王元化学術研究センターの『岡村繁全集(全十巻、別巻)』 十一月三日、第六十五回西日本新聞社「西日本文化賞」を受賞する。

&

平成

平

平成二十六年 (二〇一四) 十二月二十六日早暁、 福岡県福岡市東区青葉の自宅にて永眠

元化著作集(全三巻)』刊行完結座談会に出席する。

戒名は「學德院教譽智光淨繁大居士」。同日付で内閣総理大臣より従四位を授与さる。

岡村 繁先生 略年譜

5

# 岡村 繁先生 著作目録

#### 凡例

究』八四、『中国文学論集』一五、『中国詩人論』、『岡村繁全集』一○、『東方学』一二四)を適宜参照して 作成したものである。 本目録は、岡村繁先生ご本人による自筆ノート『岡村繁著述目録』を底本とし、既存の目録(『文学研

が、 底本は岡村先生ご自身により、詳細な項目を以て整理されており、本目録はこれを参考に項目を分けた ほぼ同様の項目と判断されるものについては、適宜一項目にまとめた。

最後の「その他」には、岡村繁先生について書かれた記事や文章のうち特記すべきものを加えた。

	19 広瀬	18 広瀬	17 広瀬	16 広瀬	15 広瀬	14 広瀬	13 広瀬	12 広瀬	11 杉浦	10 亀井	9 対国	8 亀井南	7 亀井	6 亀井	5 亀井	4 陶淵	3 後漢		2 広島	1 文 <sub>心</sub>	3
岡村 繁	畑荘全集	畑荘全集	畑莊全集	畑莊全集	畑莊全集	瀬旭荘全集	畑荘全集	瀬旭荘全集	4重剛全集	井南冥・昭陽	馬藩現存漢籍	ガ南冥・昭陽	井南冥・昭陽	井南冥・昭陽	井南冥・昭陽	明	漢三国の評論	広島大学文学部	<sup>岡</sup> 大学文学 <sup>図</sup>	心雕龍索引	
繁先生 著作	第十一巻	第八巻	第七巻	第六巻	第五巻	第四巻	第三巻	第二巻	第五巻	全集	#分類目録	<b>啄全集</b> 第二	全集	<b>啄全集</b> 第三	<b>防全集</b> 第	世俗と超俗	冊に関する	义 学部	印中国文学研	(漢文学叢書)	
著作目録	随筆篇	日記篇八	日記篇七	日記篇六	日記篇五	日記篇四	日記篇三	日記篇二		第八巻下		一巻	第四巻	三巻	巻	N H K	研究・附続		大学文学部中国文学研究室書籍目録	広	
	共編	九州大学文学部	共編			共編	ブックス22)	評論に関する研究・附録論文二篇		<b>-</b> 録(油印本)	島文理科士										
	思文閣出版	葦書房		葦書房	葦書房	葦書房	葦書]房	<ol> <li>日本放送出版協会</li> </ol>	自家油印(学位論文)		*「索引」山口義雄一	島文理科大学漢文学研究室									
	一九八二年	一九八〇年	一九八〇年	一九七八年	一九七八年	一九七八年	一九七八年	一九七四年	一九六二年		[編] 一九五三年	一九五〇年									
	一月	九月	三月	一二月	一〇月	八月	五月	一二月	三月		一二月	九月									

37		36	35	34		33	32	31	30	29	28	27		26	25	24	23	22	21	20	
文選の研究 岩波書店	九州・シルクロード協会[編] アイネック	生命のかがり火 ティムール・ダワマイデ [著]・岡村繁 [訳]	広瀬旭荘全集 第九巻 日記篇九 共編 思文閣出版	白氏文集六(新釈漢文大系一〇二) 明治書院	台湾書店	世俗与超俗 ――陶淵明新論 (財団法人劉真先生学術基金会叢書) 陸暁光・笠征 [訳]	広瀬淡窓・広瀬旭荘(江戸詩人選集第九巻) 岩波書店	白氏文集四(新釈漢文大系一〇〇) 明治書院	宗家文庫史料目録(記録類Ⅳ和書漢籍)宗家文庫漢籍目録  厳原町教育委員会	白氏文集三(新釈漢文大系九九)  明治書院	毛詩正義訳注 第一冊 中国書店	中国詩人論(岡村繁教授退官記念論集) 汲古書院	九州大学文学部中国文学研究室文選学史研究会	文選研究論著目録 *牧角悦子 [主編]	藤樹書院蔵書分類目録 滋賀県安曇川町	藤樹先生に学ぶ(藤樹講演会叢書第一四集)  滋賀県安曇川町教育委員会	中国文学専題三講(淡江講座叢書五七)  劉三富[訳]   淡江大学出版中心	文心雕龍索引(改訂版) 采華書林	広瀬旭荘全集 第十巻 日記篇一 共編 思文閣出版	秋月郷土館蔵書分類総目録 共編 文献出版	
一九九九年	- : : :	一九九四年一	一九九四年	一九九三年		一九九二年一	一九九一年一	一九九〇年一	一九九〇年	一九八八年	一九八六年一	一九八六年一		一九八六年	一九八五年	一九八五年	一九八四年一	一九八二年	一九八二年	一九八二年	
四月	-	月	六月	八月		月	二月	月	三月	七月	○月	○月		三月	五月	三月	月	九月	六月	三月	

	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38
岡村	岡村繁全集別巻I	王元化著作集Ⅲ	広瀬旭荘全集	岡村繁全集	岡村繁全集	岡村繁全集	岡村繁全集	白氏文集七上	王元化著作集Ⅱ	白氏文集二下	白氏文集二上	白氏文集八	白氏文集九	王元化著作集Ⅰ	白氏文集五	岡村繁全集	岡村繁全集	岡村繁全集	岡村繁全集	岡村繁全集	岡村繁全集
繁先生			米 第十巻	第十巻	第九巻	第八巻	第七巻			- (新釈漢	一 (新釈漢	(新釈漢文	(新釈漢文		(新釈漢	第六巻	第五巻	第四巻	第三巻	第二巻	第一巻
著作目録	文心雕龍索引	九十年代の反思録	苍 詩文篇 共編	随想篇	梅墩詩鈔拾遺	毛詩正義注疏選箋	日本漢文学論考	(新釈漢文大系一〇三)	思辯随筆	白氏文集二下(新釈漢文大系一一七)	(新釈漢文大系九八)	(新釈漢文大系一〇四)	(新釈漢文大系一〇五)	文心雕龍講疏	(新釈漢文大系一〇一)	歴代名画記訳注	唐代文芸論	陶淵明·李白新論	漢魏六朝的思想和文学	文選之研究	周漢文学史考
	上海古籍出版社	汲古書院	思文閣出版	上海古籍出版社	上海古籍出版社	上海古籍出版社	上海古籍出版社	明治書院	汲古書院	明治書院	明治書院	明治書院	明治書院	汲古書院	明治書院	上海古籍出版社	上海古籍出版社	上海古籍出版社	义学 上海古籍出版社	上海古籍出版社	上海古籍出版社
	二〇一〇年	二〇一〇年	二〇一〇年	二〇〇九年	二〇〇九年	二〇〇九年	二〇〇九年	二〇〇八年	二〇〇八年	二〇〇七年	二〇〇七年	二〇〇六年	二〇〇五年	二〇〇五年	二〇〇四年	二〇〇二年	二〇〇二年	二〇〇二年	二〇〇二年	二〇〇二年	二〇〇二年
	四月	三月	一月	六月	六月	六月	六月	七月	三月	七月	七月	八月	七月	四月	二月	一〇月	一〇月	一〇月	八月	八月	八月

	11	10		9	8		7	6	5	4	3		2	1	論文	62	61	60	59	
東北大学教養部紀要第一号(人文科学・外国文学篇)	『六朝詩集』とそれに収められた「鮑氏集」について	清談の系譜と意義 日本中国学会報第一五集	名古屋大学文学部研究論集二八(文学一〇)	「才性四本論」の性格と成立 ―― あわせて唐長孺氏の「魏晋才性論的政治意義」を駁す ――	人物志劉注校箋 名古屋大学文学部研究論集二五(文学九)	支那学研究(広島大学)第二四・二五合併号(斯波六郎博士追悼特集)	曹丕の「典論論文」について	後漢末期の評論的気風について 名古屋大学文学部研究論集二二(文学八)	郭泰の生涯とその為人 支那学研究(広島大学)第一三号	郭泰・許劭の人物評論 東方学第一〇輯	世説所見話言用典考  広島大学文学部紀要第五号	哲学(広島大学)第三輯(白井先生頌寿記念論文特輯)	人物志の流伝について ――支那中古人物論の本質解明への一試論 ――	沈約郊居賦雷張同箋補正 日本中国学会報第三集		白氏文集十一(新釈漢文大系一○七)  明治書院	白氏文集十(新釈漢文大系一○六)  明治書院	白氏文集七下(新釈漢文大系一一八)  明治書院	白氏文集十二上(新釈漢文大系一〇八) 明治書院	中国文学論集 第四十四号
	一九六五年 三	一九六三年一〇		一九六二年 三	一九六一年 三		一九六〇年一〇	一九六〇年 一	一九五五年 九	一九五五年 四	一九五四年 三		一九五二年一二	一九五二年 三		二〇一五年九	二〇一四年一	二〇一一年 六	二〇一〇年 六	
	三月	○月		三月	三月		○月	二月	九月	四月	三月		二月	三月		九月	二月	六月	六月	
										10 -	_									

27	26	25	24	23		22	21	20			19		18	17	16	15	14	13	12
『名画猟精録』の性格とその価値 文学研究(九州大学)第七二輯	張彦遠『歴代名画記』の撰述過程 目加田誠博士古稀記念中国文学論集 龍渓書舎	揚雄の文学・儒学とその立場 中国文学論集第四号(浜一衛先生退官記念号)	漢初における辞賦文学の動向 鳥居久靖先生華甲記念論集:中国の言語と文学	『歴代名画記』序篇校注 文学研究(九州大学)第六九輯	野草第四号(特集 ――中国の古典文学と現代)	陶淵明に関する魯迅の提言と革命後の中国での討論	五言詩の文学的定着の過程 九州中国学会報第一七巻	陶淵明論 —— その超俗的生活を支えた世俗性 ——   文学研究(九州大学)第六八輯	TURE KYUSHU UNIVERSITY" No.12)	STUDIES IN LITERATURE No.3 ("BULLETH OF THE FACULTY OF LITERA-	Ch'ü Yüan is not the Author, if the Hero, of Ch'u-tz'ŭ Literature	文学研究(九州大学)第六五輯(目加田教授退官記念特輯)	唐末における曲子詞文学の成立	駢文 文学概論(中国文化叢書第四巻) 大修館書店	楚辞と屈原 ――ヒーローと作者との分離について ―― 日本中国学会報第一八集	楚辞文学における「抽思」の位置 集刊東洋学第一六号(中国文学特集号)	建安文壇への視角 中国中世文学研究(広島大学)第五号	「敦煌本文選注」校釈 東北大学教養部紀要第四号(国文学・漢文学特輯)	細川家永青文庫蔵「敦煌本文選注」について  集刊東洋学第一四号
一九七五年 三月	一九七四年一〇月	一九七四年 五月	一九七二年一二月	一九七二年 三月		一九七一年 七月	一九七一年 五月	一九七一年 三月			一九六八年一二月		一九六八年 三月	一九六七年 九月	一九六六年一〇月	一九六六年一〇月	一九六六年 六月	一九六六年 二月	一九六五年一〇月

岡村

繁先生 著作目録

41	40		39	38	37	36	35	34		33		32	31	30		29		28	
李白「峨眉山月歌」考 ――李白の出蜀経路とその詩想開眼 ――	唐代詩人群像 文学のなかの人間像(九州大学公開講座1) 九州大学出版会	森三樹三郎博士頌寿記念東洋学論集 朋友書店	「橘頌」の出現 ―― 楚辞騒体文学の分裂現象 ――	文選集注と宋明版行の李善注 加賀博士退官記念中国文史哲学論集 講談社	北九州の漢学(下) 国語一八三号 東京書籍	北九州の漢学(中) 国語一八一号 東京書籍	北九州の漢学(上) 国語一七八号 東京書籍	張懷瓘の書論と張彦遠の画論 中国書論大系月報四 二玄社	国語の研究(大分大学)第一〇号(工藤豊彦教授退官記念特輯号)	物語文学の成立と唐宋の説話文学	文学研究(九州大学)第七四輯(永田英一教授退官記念特輯)	亀井南冥『春秋左伝考義』の現存写本について	蔡邕をめぐる後漢末期の文学の趨勢  日本中国学会報第二八集	『史記』から『漢書』へ 国語一五五号 東京書籍	九州文化史研究所紀要(九州大学)第二一号	筑前秋月藩の漢学と教育 秋月郷土館蔵漢籍管窺	第一学習社	班固と張衡 ――その創作態度の異質性 ―― 小尾博士退休記念中国文学論集	다 모드 / 스크 IND 47 / 스크 ID - ID - I
一九八一年一二月	一九八〇年 四月		一九七九年一二月	一九七九年 三月	一九七九年 三月	一九七九年 一月	一九七八年一〇月	一九七八年 九月		一九七七年 五月		一九七七年 三月	一九七六年一〇月	一九七六年 九月		一九七六年 三月		一九七六年 三月	
								19 -	_										

荒木教授退休記念中国哲学史研究論集

葦書房

	55	54		53		52	51	50		49	48		47	46		45	44	43		42
日本漢学論文集(一) 文史哲出版社(台北)	「離騒」及「九章」的形成	『文心雕龍』における五経と文筆美 中国文学論集第一三号	三迫初男博士古稀記念論攷漢語・漢文の世界  渓水社	竹添井井の『左氏会箋』が剽窃した一つの種本	中国文芸思想史論叢第一輯  北京大学出版社	論曹丕的《典論・論文》 曦鍾[訳]	周南関雎詁訓伝正義訳注(一) 文学研究(九州大学)第八一輯	李白の政治的自負とその本質 集刊東洋学第五〇号	小尾博士古稀記念中国学論集 汲古書院	「父の子に於ける、実は情欲の為に発せしのみ」	李白と孟浩然 国語二二七号 東京書籍	中国における人間性の探究(金谷治[編]) 創文社	劉劭の『人物志』における人物論の構想とその意図	周南召南譜正義訳注  文学研究(九州大学)第八〇号	中国文学論集第一一号(那須清教授退官記念号)	東晋画論における老荘思想の反映の仕方	対馬宗家文庫漢籍(朝鮮本)提要 九州文化史研究所紀要(九州大学)第二七号	詩譜序正義訳注  文学研究(九州大学)第七九輯	中国文学の女性像(石川忠久[編]) 汲古書院	劉向『列女伝』における女性の行動と倫理
	一九八五年 一月	一九八四年一二月		一九八四年 五月		一九八四年 五月	一九八四年 二月	一九八三年一〇月		一九八三年一〇月	一九八三年 三月		一九八三年 二月	一九八三年 二月		一九八二年一〇月	一九八二年 三月	一九八二年 三月		一九八二年 三月

岡村

繁先生

著作目録

69	68	67	66	65	64	63		62	61			60	59	58		57	56	
「説文解字叙」段注箋釈(一)  久留米大学比較文化研究所紀要第二輯  東方学会創立四十周年記念東方学論集  東方学会	『文選』李善注の編修過程 ── その緯書引用の仕方を例として ── 中古文学と漢文学Ⅱ(和漢比較文学叢書第四巻) 汲古書院	中国文学と王朝物語 ――『斑竹姑娘』と『竹取物語』との関係 ――*一九八五年一〇月一五日西日本新聞文化欄の訂正再録	九州漢学の隆盛 九州と日本社会の形成 ——縄文から現代まで —— 吉川弘文館	『文選』と『玉台新詠』 神田喜一郎博士追悼中国学論集 二玄社	『詩経』とその詩人たち 中国詩人論 汲古書院	『文選』編纂の実態と編纂当初の『文選』評価 日本中国学会報第三八集	日本学者中国文学研究訳叢第一輯 吉林教育出版社	楚辞与屈原 —— 関于主人公与作者的区別   孫東臨[訳]	周南関雎詁訓伝正義訳注(三)  文学研究(九州大学)第八三輯	国書刊行会	秋月藩の教学に関する年表 九州と思想・文化 (九州近世史研究叢書第一四巻)	(補訂再録)筑前秋月藩の漢学と教育 ――秋月郷土館蔵漢籍管窺 ―― (付表)福岡藩・	「文選」与「玉台新詠」   余崇生[訳]   古典文学第七集(上)   台湾学生書局	李白とその妻子たち 古田教授退官記念中国文学語学論集 東方書店	学術討論会論文選輯) 一九八五年第二輯(総第三四輯) 上海古籍出版社	《文心雕龍》中的五経和文章美  李慶[訳]  中華文史論叢(中日学者《文心雕龍》	周南関雎詁訓伝正義訳注(二) 文学研究(九州大学)第八二輯	
一九八七年 八月	一九八七年 六月	一九八七年 二月	一九八七年 一月	一九八六年一二月	一九八六年一〇月	一九八六年一〇月		一九八六年 五月	一九八六年 二月			一九八五年一一月	一九八五年 八月	一九八五年 七月		一九八五年 六月	一九八五年 三月	
Л	ß	Л	刀	刀	刀	刀		刀	刀			刀	刀	刀		刀	刀	

82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71 70
白楽天の詩賦と唐代の科挙  新しい漢文教育第一一号    慶賀楊明照教授八十寿辰文心同雕集  成都出版社	班固和張衡 —— 論他們創作態度的異質性	五 与 佐 第	論老荘思想対東晋画論的影響 向以鮮 [訳] 朝日新聞社	江南の自然と文人・詩人(王羲之と陶淵明)	「説文解字叙」段注箋釈(三)  久留米大学比較文化研究所紀要第五輯    禅文化研究所紀要(花園大学)第一五号(入矢義高教授喜寿記念論集)	さまよえる『文選』 ――南北朝末期における文学の動向と「文選学」の成立 ――	詩の誕生と宮廷文学の開花(先秦・漢魏六朝詩概説)昭明文選研究論文集 吉林文史出版社	《文選》李善注的編修過程 ——以引用緯書的情形為例 ——	東晋画論与老荘思想  馬振方[訳] 中国文芸思想史論叢第三輯  北京大学出版社	「説文解字叙」段注箋釈(二)   久留米大学比較文化研究所紀要第三輯第一届中国域外漢籍国際学術会議論文集   聯合報文化基金会国学文献館(台北)	細川家永青文庫蔵「敦煌本文選注」について『毛詩正義』校勘劄記  詩経研究第一二号
一九九〇年一一月	一九九〇年 六月	一九九〇年 六月	一九九〇年 三月	一九八九年 六月	一九八九年 一月	一九八八年一二月	一九八八年一〇月	一九八八年 六月	一九八八年 六月	一九八八年 三月	一九八七年一二月一九八七年一二月

岡村

繁先生

著作目録

96 広瀬旭荘『梅墩詩鈔』三序訳注   久留米大学比較文化研究所紀要第一八輯     一上隆山学刊(社会科学版)一九九四年第三期	《二派十名词》 - 『五郎・牛月明[訳] - 「末期的文学趨勢 - 王琳・牛月明[訳] - 「工事をの質を高める生き方(久留米大学公開講座五) - 石風社		93 僧大潮と近世九州の漢詩壇 九州学を楽しむ (久留米大学公開講座四) おうふう 一上	92 〔専家漫筆〕外なる「体」と内なる「体」 中国語第四一〇号 内山書店 一-	91 〔専家漫筆〕「四亭八当」という成語 中国語第四〇九号 内山書店 一-	90 〔専家漫筆〕「二人」と「三人」 中国語第四〇八号 内山書店 一-	89 白居易の賦 白居易の文学と人生Ⅱ(白居易研究講座第二巻) 勉誠社 一	久留米大学文学部紀要(国際文化学科編)第三号	88 永青文庫蔵敦煌本『文選注』箋訂(一)	慶祝饒宗頤教授七十五歲論文集 香港中文大学中国文化研究所	87 試以蔡邕為中心論後漢末期文学的趨勢 郭斐映[訳]	文選学論集(選学国際学術研討会論文集) 時代文芸出版社	86 文選集注与宋明版本的李善注 郭斐映[訳] 一-	文心雕龍研究薈萃  上海書店	85 《文心雕龍》在唐初鈔本《文選某氏注》残篇中的投影 林少華 [訳]	《文心雕龍》国際学術研討会論文集  文史哲出版社	8 《文心雕龍》中的五経和文章美 竹村則行・周龍梅 [訳]	83 白楽天の詩賦と王朝の詩賦 和漢比較文学第八号 一-	
一九九六年	一九九四年	一九九四年	一九九四年	一九九四年	一九九四年	一九九三年一	一九九三年		一九九三年		一九九三年		一九九二年		一九九二年		一九九二年	一九九一年一	
九月	九月	九月	三月	二月	月	二月	七月		六月		六月		六月		六月		六月	○ 月	

	108	107	106	105	104	103		102	101		100	99	98		97
中外学者文選学論集  中華書局	南北朝末期文学的動向及"文選学"的形成 劉玉飛[訳] 兪紹初[校訂] 中外学者文選学論集 中華書局	編修	中外学者文選学論集  中華書局  《文選》編纂的実際情況与成書初期所受到的評価  劉玉飛[訳] 兪紹初[校訂]  中外学者文選学論集  中華書局	《文選集注》与宋明版本的李善注 郭斐映[訳] 段書偉[校訂]	司馬相如伝考が学林第二八・二九号(高木正一先生追悼記念論集) 男文第一〇プ号(昌平黌倉월二〇〇年・期文会倉式戸〇年記念号)	「「「「「」」、「「」」、「「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」	学術集林巻 一一 上海遠東出版社	南北朝末期的文学動向与文選学的興起  陸暁光[訳]	梅墩詩鈔初編訳注(二)   久留米大学比較文化研究所紀要第二○輯	久留米大学文学部紀要(国際文化学科編)第一一号	永青文庫蔵敦煌本『文選注』箋訂(下)	『白氏文集』の旧鈔本と旧刊本 東方学会創立五十周年記念東方学論集 東方学会	梅墩詩鈔初編訳注(一) 久留米大学比較文化研究所紀要第一九輯	中国文哲研究通訊第六卷第四期  中央研究院中国文哲研究所	孝道与情欲——後漢末期儒教的苦悩
	一九九八年	一九九八年	一九九八年	一九九八年	一九九八年	一九九八年		一九九七年	一九九七年		一九九七年	一九九七年	一九九七年		一九九六年一二月
	八月	八月	八月	八月	三月	三月		一月	九月		六月	五月	三月		一二月

岡村

繁先生 著作目録

#### 国文学論 第 四十 应

109 永青文庫蔵敦煌本 学術集林卷一四 《李善注》箋訂 上海遠東出版社 £ 羅国威 九九八年一〇月 〇月

111 110 永青文庫蔵敦煌本《文選注》箋訂 六朝貴族文人の臆病と虚栄 日本中国学会創立五十年記念論文集 (続篇) 羅国威 汲古書院 九九八年一 九九九年

五言詩的定型過程 学術集林巻一五 陸暁光 上海遠東出版社 訳 中国学研究第三輯 中国書籍出版 九九九年

九月

114 113 112 宋代刊本《李善注文選》剽窃和利用了《五臣注》 新国学第一卷 宋代刊本『李善注文選』に見られる『五臣注』からの剽窃利用 村山吉廣教授古稀記念中国古典学論集 汲古書院 巴蜀書社 二〇〇〇年 九九九年 三月

115 六朝貴族文人的懦怯和虚栄 **兪慰慈**[訳]

宋代刊本《李善注文選》盗用了《五臣注》 慶祝王元化教授八十歳論文集 華東師範大学出版社 兪慰慈・陳秋萍 訳

116

、昭明文選》与中国伝統文化 (第四届文選学国際学術研討会論文集)

唐代文化と日本 重修北宋国子監本 | 荘老告退、山水方滋」考 ―― 淝水の戦の文化史的意義 立命館文学第五九八号 『李善注文選』序説 福岡教育大学国語科研究論集第四五号 (清水凱夫教授退職記念論集) 中国文学論集第三二号 吉林文史出版

> 二〇〇四年 二〇〇三年

一二月

119 118 117

#### 随 随 想 ・概説

2 1 中 歯の 国の **詩**② )詩(1) 天翔 天翔 (神戸) 神戸 五〇号 Ŧi. 묶

九五五年 九五五年

1001年

六月

二〇〇一年

一月

	22	21	20	19		18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
岡村	中国――近く	陶淵明 ――そ	奇妙な語順の本	目加田誠著『日	会報(九日	目加田誠著『海	伊勢湾台風の中で	"伝統"という言葉	美人考 星	漢文入門期の京	研修雑感	中古の中国人の	中国の詩⑩	中国の詩9	中国の詩8	中国の詩⑦	愚公、山を移す	中国の詩⑥	中国の詩⑤	中国の詩④	中国の詩③
繁先生 著作目録	近くて遠き〈上〉 西日本新聞(夕刊)文化欄	その「真」と通俗性 朝日新聞(夕刊)文化欄	の文章 朝日新聞(夕刊)文化欄(研究ノート)	『屈原』 会報(九州大学文学部同窓会)第一一号	会報(九州大学文学部同窓会)第一〇号	『洛神の賦 ――中国文学論文と随筆』	の中で 星陵新聞八二号	う言葉 星陵新聞七五号(星陵高等学校八十周年記念号)	星陵文学第一四号	漢文入門期の取り扱いについて 漢文教室第三六号 大修館書店	兵庫教育第九巻第一○号	古の中国人の生活と古典 ――特に其の会話と古典とについて ――  星陵文学第一三号	天翔(神戸)六一号	天翔(神戸)五九号	天翔(神戸)五七号	天翔(神戸)五六号	炒す 天翔(神戸)五五号	天翔(神戸)五四号	天翔(神戸)五三号	天翔(神戸)五二号	天翔(神戸)五一号
	一九七一年 二月一五日	一九七〇年一一月二六日	一九六九年一一月 八日	一九六八年 三月		一九六七年 三月	一九五九年一一月	一九五八年一〇月	一九五八年 九月	一九五八年 五月	一九五八年 二月	二号 一九五七年一一月	一九五六年 七月	一九五六年 五月	一九五六年 三月	一九五六年 二月	一九五六年 一月	一九五五年一二月	一九五五年一一月	一九五五年一〇月	一九五五年 九月

40	39	38	37	36		35	34	33	32	31	30	29	28		27	26	25	24	23	
亀井南冥・昭陽の学問 ―― 著述全集刊行を機に 西日本新聞(夕刊)文化欄	欧米紀行三 九大学報一一四〇	欧米紀行二 九大学報一一三九	欧米紀行一 九大学報一一三八	=特別寄稿=ある山村の小学校の思い出 近江教育第五九三号 滋賀県教育会	図書館情報第一三巻第三号 九州大学附属図書館報(通巻一○八号)	附属図書館長就任のあいさつ	亀井昭陽『毛詩考』解説	『文選』訳注の完成 全釈漢文大系月報二四(第三二巻『文選』七) 集英社	東洋の友誼 日中協ニュース第四七号 日中友好国民協議会	『世説新語』との出会い 新釈漢文大系季報三七 明治書院	佐藤震二先生を祭る文 会報(九州大学文学部同窓会)第一七号	たくましい学問の場を 会報(九州大学文学部同窓会)第一七号	『甲賀町史』を読んで 広報こうか二二二号 滋賀県甲賀郡甲賀町役場	ト)」(その2) 駿台文庫	読み手の立場 駿台新聞第一一号「作文力をつけるには(国立大学教授にアンケー	学部長提言「文学部」 蛍雪時代五月号 旺文社	所感 会報(九州大学文学部同窓会)第一六号	陶淵明の人と作品 国語一一四号 東京書籍	中国――近くて遠き〈下〉 西日本新聞(夕刊)文化欄	E ELTAZIONE EN ASTRE PLES
一九七八年 五月一六日	一九七八年	一九七八年	一九七八年	一九七七年一		一九七七年	一九七六年一	一九七六年一	一九七五年	一九七五年	一九七四年	一九七四年	一九七三年		一九七三年	一九七三年	一九七三年	一九七二年一	一九七一年 二月一六日	
六日	三月	二月	月	月		九月	二月	月	月	月	三月	三月	九月		七月	五月	三月	二月	六日	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49		48	47	46	45	44	43	42	41
期波先生に考えてた日々期波		「定本詩経訳注(下)」・「楚辞訳注」	杉浦重剛先生の漢詩 ――郷里を詠い	戦争に明け暮れた学生時代 追懐	堂々の巨冊『広瀬旭荘全集』	佐藤清太先生の思い出 洗耳子	秋月郷土館蔵漢籍解題 秋月郷	杉浦重剛の漢詩文について 杉	「近況」李白研究に明るい見通し	先学を語る――斯波六郎博士―― (	『亀井昭陽詩文集』解説	西日本新聞(夕刊)文化欄	「商女は知らず亡国の恨み」――唐	物語文学のルーツ朝日新聞(	中国文学二つの大著 ―― 相つぐ発刊に寄せて	亀井昭陽の学問的慧眼	亀井昭陽『左伝纘考』解説	『文心雕龍』による学問の交わり	亀井南冥『泱泱余響』解説	亀井南冥『春秋左伝考義』解説
<b>期波先生を偲んて - 広島大学文学部中国文学研究室</b>	九八	」 『目加田誠著作集』第三巻   龍渓書舎	郷里を詠じた詩を中心に ―― (大津市)梅窓報第二〇号	懷(広島高等師範学校創立八十周年記念)	大分合同新聞(夕刊)	——佐藤清太博士追悼文集  同刊行会	秋月郷土館蔵漢籍書分類総目録 文献出版	杉浦重剛全集第五巻 思文閣出版	西日本新聞(夕刊)文化欄	(司会) 東方学第六一輯	亀井南冥・昭陽全集第八巻下  葦書房		唐王朝の衰亡と詩風の変移	朝日新聞(夕刊)文化欄	1に寄せて ―― 西日本新聞(夕刊)文化欄	亀井南冥・昭陽全集によせて三 葦書房	亀井南冥・昭陽全集第三巻 葦書房	新釈漢文大系季報五五 明治書院	亀井南冥·昭陽全集第一巻 葦書房	亀井南冥・昭陽全集第一巻  葦書房
一力グ四年・力月	一九八三年一	一九八三年 九月	一九八三年 四月	一九八二年一〇月	一九八二年 七月二〇日	一九八二年 四月	一九八二年 三月	一九八二年 一月	一九八二年 一月 八日	一九八一年 一月	一九八〇年 九月		一九八〇年 二月二九日	一九八〇年 二月 四日	一九七九年 六月二二日	一九七八年一〇月	一九七八年 八月	一九七八年 六月	一九七八年 五月	一九七八年 五月

岡村

繁先生

著作目録

70 77	7.0	7-		7.4	70	70	71	70	CO	CO	C.T.	CC	c =	C 4	CO	CO	C1	
78 77	76	75 **:		74	73	72	71	70	69 速	68	67	66 ±±	65	64	63	62	61	
目目加加田田田	一 海 停 知	施設長	+	はるけ	文学部の開設とその理念	日田の	挑灯	文学部設置	清と俗	私が教えた高校生たち	白氏文集』	精読と拾い読み	退官にあたって	九州漢学の隆盛	無言の	藤樹書院蔵	藤樹先生に学ぶ	
誠先先	停年退休記念文集生前弔辞海知義さんを哀悼する辞	のこ	十七会五○周年記念誌	るけくも来たるものかな	の開	の広瀬宗家の先賢文庫		設置		えたた	又集』	拾い	あた	学の	の教育	院蔵	生に	
誠先生の思い	休記会	のころの想	五〇	来た	設とえ	宗家		認可さる	壮年時	高校:	の全	読み	って	隆盛		書解説	学ぶ	1
誠先生の思い出誠先生と詩経	忌文集	想い出	角年記	るもの	ての 押	の先駆		さる	吋代の	生たま	の全訳を第三	独田	$\triangle$	戒	会報	説	本	1
詩	生前の金融	Ш	念誌	かかな	念	具文庫	久	久	壮年時代の白楽天―	9	第三	御井	会報	西日本新聞	(滋智	藤樹	樹譜	ĺ
中国文学論集第	中 "' 辞 -	九州		5	太		留米	久留米大学広報第七八号		星友	冊より発刊するの弁	(久留米大学御井図書館ニュース)第八号	(九州大学文学部同窓会)	新聞	(滋賀大学教育学部同窓会)	藤樹書院蔵書分類目録	藤樹講習会叢書一	1
中国文学論集第二三号経研究第一九号	_	九州文化史研究所紀要	和一七		子時報	御井	留米大学広報第七八号	大学	-1.00	星友平成元年号	発刊	米大災	大学	(夕 刊	教育	蔵書	叢書	
論 集 第 十 九 号	海知義を祭る	<b>史研究</b>	年三		日 日	井図書館ニュー	ム報等	ム報等	新釈満	兀年早	する	字御出	<b>义学</b> 郊	文	字部同	分類日	一四集	
711三	莪 を 祭	が が に れ に か に か に か に か に か に か に か に か に か	月一		<b>本私</b> 立	ニュ	七八	七八八	(文)	J	の弁	図書	同窓	化欄	窓会	録	*	
号	3		九日滋		大学	ス	号	号	新釈漢文大系季報七九	兵庫	新	館ニ	会	九州	() 第	滋		
-	<b>一</b> 海	九州七	賀県		連盟	(久留米大学)			報七十	県立音	<b>朳漢</b>	ユーフ	第二九号	と月	第三六号	滋賀県安曇川町		
	知義	学)	師範		第四	半大			ル	生陵高	大系	全 第	号	本社会	b	女曇		
1	海知義停年退休記念文集刊行会	(九州大学) 第三九号	(昭和一七年三月一九日滋賀県師範学校本科卒業同級会誌)		大学時報(日本私立大学連盟)第四一巻二二五号(七月号)	学			明治書院	兵庫県立星陵高等学校同窓会	新釈漢文大系季報七五	八号		(夕刊) 文化欄「九州と日本社会の形成」(六六)		町		
į	K 記	九号	平科卒			第一九号			書院	校同	五五			成				
:	念文集		業同		号(	乃号				窓会	明			(X 大				
	乗 刊 行		級会試		七月日						明治書院			$\cup$				
3	会		談		5		<u>.</u>	<u>.</u>			., -			<u>.</u>				
							九九一	九九一						九八二				
九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九	九九九	一九九四		九九九	九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九	九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九九	三年	年	九九九	九八八	九八八	一九八八.	九八八	五年一〇月	九八八	一九八五.	九八八	
九九四年	九四年	四年		九九二年	九九二年	九九二年	一月	一月	九〇年	九八九年	九八八年	八八年	九八六年	○月	八五年	五年	九八五年	
	七	・三月		·一〇月	・ 七月	六	四	四	${-}$		七	七	=	五.	$\overline{}$	五.	・三月	
月月	月	月		月	月	月	日	日	月	月	月	月	月	日	月	月	月	

93	92	91		90	89	88		87	86	85	84	83		82	81		80	79	
草創期の中国文藝座談会・『中国文学論集』  中国文学論集第四○号	『白氏文集』自注に見える後日の追記 新釈漢文大系季報一一〇 明治書院	『白氏文集』に見える「何則」の用法 新釈漢文大系季報一〇八 明治書院	ト」 全漢詩連会報第八号 全日本漢詩連盟	漢詩にっぽん東西南北(佐賀県) *最優秀作は石碑に刻す「ふるさと漢詩コンテス	「九州図書館史」の完成と出版 西日本新聞(朝刊)文化欄 二〇	之を仰げば弥々高く、之を鑽れば弥々堅し 入矢義高先生追悼文集 汲古書院	*一九八八年同朋社刊『中国文学歳時記』春(上)の再録	「春寒」 『漢詩歳時記 春の一』 同朋社	厳選された中原文明の至宝 ――大黄河文明展を観て ―― 日中文化交流第六二四号	竹治貞夫さんの学徳を偲んで 徳島大学国語国文学第一一号	洛陽回憶 日中文化交流第六〇二号 日本中国文化交流協会	中国古代の死生観 医療科学入門 ―― その科学・アート・文化 南江堂	生きることの美しさ(久留米大学公開講座一一) 石風社	老いは楽しく――中国古代の死生観――	年度ごとに大切に保存(広報こうか五○○号に寄せて) 広報こうか第五○○号	シルクロード第六号 九州・シルクロード協会	シルクロードの文学 ――新疆ウイグル自治区の散文と詩歌 ――	目加田誠先生を悼む 東方学第八九輯	
二〇一一年	二〇一〇年	二〇〇八年		二〇〇五年	二〇〇〇年一二月	二〇〇〇年		二〇〇〇年	一九九九年	一九九八年	一九九七年	一九九七年		一九九七年	一九九六年		一九九六年	一九九五年	
一二月	六月	七月		四月	一九日	三月		一月	三月	三月	一二月	四月		三月	一〇月		一〇月	月	

書評	
資料紹介	
推薦	

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 3 2 1 4 武内義雄著 宇都宮清吉訳『顔氏家訓』 新時代をよぶ画期的労績 大型コレクション『百部叢書集成』について 近藤春雄著『唐代小説の研究』 中国文学論集第八号 鈴木修次著 増田清秀著 増田清秀著 中島千秋著 石 李白研究の画期的名著 久留米大学本高麗版『白氏文集』 村山吉廣・江口尚純共編『詩経研究文献目録』 水沢利忠著『史記』列伝一(新釈漢文大系八八) 山内春夫著 川忠久著 図書館情報第一九巻第一号(通巻一二九) 東方第一七五号 『杜牧の研究』 『漢詩人 大正天皇――その風雅の心 『楽府の歴史的研究』(詳評) 『楽府の歴史的研究』 『賦の成立と展開 『論語之研究』 週刊読書人 ――その特質と漢字文明の将来』『漢語と日本人』『中国文学と日本 松浦友久著『李白伝記論 読書人 近藤春雄[著]『日本漢文学大事典』(明治書院刊) 新しい漢字漢文教育第四三号 中国文学論集創刊号 志学(大谷女子大学学報)第一六号 集刊東洋学第一二号 御井(久留米大学御井図書館ニュース)第二三号 創文一四三号 中国文学論集第五号 詩経研究第一七号 九州大学附属図書館報 - 客寓の詩想 新しい漢文教育第一二号 創文社 広告 二〇〇六年一一月 1010年 九九二年 九七九年 九九五年一〇月 九九三年 九九一年 九八五年 九八四年 九七五年 九七〇年 九七八年一二月 九七六年 九六四年 一二月 五月 九月 九月 三月 五月 九月 四月 五月

漢文教室第一九六号

大修館書店

2	1	訳	12		11	10	9	8	7	6	5	4	3		2	1
句」(元趙孟頫)「江南曲」(清 宋琬)「春寒」(清 厲鶚)『中国文学歳時記 春(上)』  同朋舎  *「春寒」「題池州貴池亭」(唐 杜牧)「絶[訳])』詩品』の序(岡村繁[訳]) 歴代名画記(岡村繁・谷口鉄雄[共訳])	『ౣ こう・・・ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~		『白居易の文学と白氏文集の成立 ――廬山から東アジアへ ――』 陳翀 [著] 短誠出版	福岡大学文心雕龍国際学術研討編委会 [主編] 文史哲出版社(台湾)	『日本福岡大学《文心雕龍》国際学術研討会論文集』	『五山文学の研究』   兪慰慈 [著]   汲古書院	『わかりやすくおもしろい中国文学講義』 九州大学中国文学会 [編] 中国書店	『九州図書館史』 西日本図書館学会 [編] 千年書房	『白居易「諷諭詩」の研究』 静永健 [著] 勉誠出版	『晩唐詩人考』 桐島薫子[著] 中国書店	『東洋の知識人 ――士大夫・文人・漢学者 ――』   渭陽会 [編]   朋友書店	『九州大学附属図書館漢籍目録』  九州大学附属図書館	『菊池租図書館学論集』  菊池租図書館学論集刊行会	中国書店	『阮籍集索引』 九州大学文学部中国文学研究室詠懷詩会 [編] (藤井良雄 [主編])	『嵇康集〝詩〟索引』  松浦崇[編]  彙文堂書店
一九八八年一一月	一九七四年 六月		二〇一一年 四月		二〇〇七年 三月	二〇〇四年 二月	二〇〇二年 五月	二〇〇〇年一一月	二〇〇〇年 二月	一九九八年 二月	一九九五年 三月	一九九五年 三月	一九八六年 八月		一九八五年 一月	一九七五年 六月

岡村 繁先生 著作目録

3

『中国文学歳時記 「九日藍田崔氏荘」(唐 杜甫)「九日」(唐 杜甫)「行軍九日思長安故園」(唐 岑 「九日送別」(唐 王之渙)「九日無酒、歩至西汀閒眺」(明 高啓)「采桑子 秋 (下)』 同朋舎 \*重陽 「九月九日憶山東兄弟」(唐 王維

九八九年

四月

(近代 毛沢東) 両重陽 「九月十日即事」(唐 李白)

菊酒

「飲酒」(晋 陶淵明)

### 講演記録・要旨

孝の系譜 滋賀県高島郡安曇川町青柳小学校 家庭教育叢書-全国藤樹講習会講話第二集

3 2 秋月藩の漢籍と秋月の乱 図書館学(西日本図書館学会)第四五号

宗家文庫と大陸文化について 対馬風土記第二二号 対馬郷土研究会

古きものに新しい生命を 図書館学(西日本図書館学会)第五四号

流行から文化へ――日本の中国文芸受容のパターン―― (文学部開設一〇周年記念講演) 久留米大学文学部紀要(国際文化学科編)第一九号(久留米大学文学部一○周年

5

記念号)

Recent Publications on Chinese Literature : III. Japan "Chinese Literature : Essay, Articles Reviews" Vol. 2, No.1. The University of Wisconsin

一九八〇年

一月

2 日本研究中国古代文論的概况 (再録) 日本研究『文心雕龍』論文集 曦鍾 [訳] 文献(北京図書館)一九八○年第四輯 斉魯書社(済南 九八一年

九州中国学会 東方学会報第四〇号 東方学会

一九八一年

七月

二月

3

活気に溢れた佐賀大会

- 26

三月

九八六年 九八四年

九月

九八九年

九七六年一二月

100二年

三月

4 九州・沖縄地区学界消息 新しい漢文教育創刊号

九八五年一〇月

#### 辞典執筆

2 1 「文心雕龍」 陶淵明」 中国語学新辞典 光生館

ブリタニカ国際大百科事典

日原利国 編 研文出版 3

屈原」「宋玉」「賦」 中国思想辞典 日本大百科全書 小学館

羅山先生詩集

国史大辞典

吉川弘文館

TBSブリタニカ

·王衍」「郭泰」「蔡邕」「人物志」「楚辞」「張彦遠」「徐幹」「桃花源記

九八六年 一月

九八四年 九七五年 九六九年一〇月

四月

九九三年

月

放送

中

国古代の文人たち一

中国古代の文人たち二

(漢代の宮廷詩人) (屈原と楚辞文学)

N H NHK第二 K 第二 (市民大学講座 (市民大学講座

> 九七三 年 一月 一日 兀

日

N H N H K 第二 K 第二 (市民大学講座 (市民大学講座

九七三年一一月一

九七八年 九七三年一一月二五日 九七三年一一月一八日 五月一一日

### その他 (岡村繁先生に関するもの)

5

朝

0

口

ータリー・

時の話題

N H K 第

3 2 1

中国古代の文人たち三(五言詩とその詩人たち)

中

・国古代の文人たち四

(陶淵明)

1 陳暉 「日本学者岡村繁来滬作学術交流 文滙読書週報第七九〇号

• 周伯軍「有朋自東瀛来, 文滙読書週報第七九〇号 不亦楽乎 岡村繁先生来滬学術交流紀実」

2

何

倩

岡村

繁先生

著作目録

二〇〇〇年 1000年 四 四月一五日 月 五日

— 27 -

11 10	9	8	7	6	5	4	3
岡村穣「長男として、父親の思い出」の「おり」という。「別は「別の思い出」の「別の別の別では、「別の別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、」は、「別の別では、」」では、「別の別では、」は、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別の別では、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、」」では、「別のでは、「別のでは、」」では、「別のでは、」は、「別のでは、」」では、「別のでは、」は、「別のでは、」は、「は、」」では、「は、」」では、「は、」は、」は、「は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、」は、」は、「は、」は、」は、」は、、」は、	月は「別ける」もこの思いようで、「見」に対性一「岡村繁恩師門下の二十五年間」	桐島薫子「追悼文岡村繁先生を偲んで」	東英寿「岡村繁先生弔辞」	竹村則行「豪放にして細密 ―― 岡村繁先生を追憶する ―― 」	竹村則行「岡村繁先生を偲んで」	学問の思い出 ―― 岡村繁先生を囲んで ―― 竹村則行 [司会]	甲斐勝二「岡村繁先生中国学的特徴」  文滙読書週報第
中国文学論集第四四号中国文学論集第四四号	国文学論集第四	中国文学論集第四四号	中国文学論集第四四号	中国文学論集第四四号	東方学第一三〇輯	] 東方学第一二四輯	七九〇号
二〇一五年一二月	<u> </u>	二〇一五年一二月	二〇一五年一二月	二〇一五年一二月	二〇一五年 七月	二〇一二年 七月	二〇〇〇年 四月一五日